★海外研修・課題研究報告書作成のためのルーブリック★

事前研究	A 研究テーマ	5	研究テーマの主題が独創的であり、研究の方向性も具体的にわかるように設定されている。
		4	研究テーマの主題が明確であり、研究の方向性が具体的にわかるように設定されている。
		3	研究テーマの主題は理解でき、研究の方向性がわかるように設定されている。
		2	研究テーマの主題は理解できるが、研究の方向性が具体的には分かりかねる。
		1	研究テーマの主題が曖昧であり、研究の方向性が具体的にわからない。
	B 課題の設定	5	テーマを探究する意義が具体的にに打ち出されており、かつ探求する上で考察するべき項目が明確に示されている。。
		4	テーマを探究する意義が読み取れ、かつ研究する上で考察するべき項目が示されている。
		3	テーマを探究する意義が設定できている。それによって研究にどう取り組むかの方向性がわかる。
		2	テーマを探究する意義がやや不明確であり、研究の意図がわかりにくい。
		1	テーマを探究する意義が不明であり、研究する意図が不明である。
	C テーマに対する仮説（現時点での見通し）	5	現時点において具体的かつ詳細に見通しが立てられており、検証すべきポイントを複数打ち出すことに成功している。
		4	現時点において具体的かつ詳細に見通しが立てられており、検証すべきポイントを一つ打ち出すことができている。
		3	現時点において見通しが立てられており、検証すべきポイントを見いだすことができる。
		2	現時点においては大まかにしか検証結果について見通しが立てられていない。
		1	現時点ではまったく検証の結果について見通しが立てられていない。
	D 調査方法	5	現時点での見通し（仮説）に基づき、効果的な調査方法が複数考案されており、かつ現地での実現が確実な手法が選択されている。
		4	現時点での見通し（仮説）に基づき、効果的な調査方法が考案されており、かつ調査する文献・資料が明確に示されている。
		3	現時点での見通し（仮説）に基づき、実現可能な調査方法が選択されている。
		2	現時点の見通し（仮説）から調査方法が考案されているが、現地での実現性が低い、または調査のしようのない手法が選択されている。
		1	現時点での見通し（仮説）とまったく関連が見いだせず、満足な調査結果が得られる見込みもない。
調査	E 調査における目的の達成度	5	設定した目的を十分に達成した上で、新たな課題を発見し、それも探求することができた。
		4	設定した目的をほぼ達成した上で、新たな課題を発見することができた。
		3	設定した目的をほぼ達成することができた。
		2	設定した目的をあまり達成することができなかった。
		1	設定した目的をまったく達成することができず、探究に進展が見られなかった。
	F 調査における手法の適成度	5	目的達成のために行った調査方法が的確で十分な検証結果を得ることができた。また、試行錯誤の過程で新たな手法を提案、実行することができた。
		4	目的の達成のために行った調査方法が的確で必要な検証結果を十分に得ることができた。
		3	目的の達成のために行った調査方法により必要な検証結果を得ることができたが、まだ調査の余地が残されている。
		2	目的達成のための調査方法が適切ではなかったために検証の成果が予想とは異なったものとなった。また、適切な手法に切り替えて調査することもできなかった。
		1	目的達成のための調査方法が適切ではなかったために検証を行うことができなかった。また、適切な手法に切り替えて調査することもしなかった。
	G 調査を通した仮説の検証	5	仮説に基づき調査を行った結果として、仮説の裏付けとなる事象を十分に得ることができ、加えて新たな発見を得ることに成功した。
		4	仮説に基づき調査を行った結果として、仮説の裏付けとなる事象を十分に得ることができた。
		3	仮説に基づき調査を行った結果として、仮説の裏付けとなる事象が得られたが、まだまだ検証の余地がある。
		2	仮説に基づき調査を行った結果として、仮説の裏付けとなる事象を十分に得ることができなかったため、仮説が検証できなかった。
		1	仮説に基づき調査を行ったが、そもそも仮説の組み方が適切でなかったために検証自体を行うことが不可能だった。
事後研究	H 考察の達成度（根拠、論理的側面）	5	根拠にもとづきながら論理的に考察されており、正確で説得力のある結論を導くことができている。
		4	根拠にもとづきながらほぼ論理的に考察されており、説得力のある結論を導くことができている。
		3	根拠にもとづきながら論理的に考察されているが、説得力のある結論を導くことができていない。
		2	根拠は示されているがデータや文章の意味を取り違えているなど、根拠としてはそぐわないものが使用されている。よって説得力のある結論を導くことができていない。
		1	根拠が示されず客観性に乏しい、考察も論理的ではなく、情緒的な側面が強い。
	I 考察の達成度（論理的側面）	5	事前の見通し（仮説）から独創的な考察への進展がうかがえる。また、十分な量の根拠と独自の思索に基づき結論を導いており、説得力がある。
		4	事前の見通し（仮説）から考察の深まりがうかがえるものとなっている。また、思索と根拠に基づきながら結論を導いている。
		3	事前の見通し（仮説）から考察の深まりはあるものの、より一層の深まりが期待される。また、結論もありふれたものに落ち着いている。
		2	事前の見通し（仮説）からの進展があまりない。また、先行研究などの引用が主で自分の意見があまり見られない。
		1	事前の見通し（仮説）からまったく進展がない。また、先行研究などの引用ばかりで自分の意見がまったく見られない。
	J 先行研究、参考文献および資料	5	課題解決に何が必要かを考えた上で複数のツールを用いながら情報を収集しており、またその運用の仕方も的確である。
		4	課題解決に何が必要かを考えた上で情報収集しており、またその運用の仕方も正確である。
		3	情報収集はされているが、やや場当たり的で、必要な情報と不必要な情報が混在している。
		2	情報収集はされているが、考察には必要性のないものばかりである。
		1	情報収集がまったくされておらず、根拠に乏しい。